尚徳寮

令和３年３月２４日
鳥取大学附属中学校
Ｎｏ．１３

門出を祝して～第73回卒業証書授与式

３月１２日（金）、鳥取大学附属中学校第７３回卒業証書授与式を行いました。新型コロナウイルスの影響で、式次第を縮小し実施しました。１３６名の卒業生は、緊張の中にも堂々とした態度で式に臨み、壇上で一人一人が返事をし、卒業証書を受け取りました。

以下に、小玉校長の式辞を抜粋して紹介します。

最近、私は山口周さんの「ビジネスの未来」という本を大変興味深く読みました。人類史の流れの中で現在を捉えると、人口増加率も経済成長率もすでに減少傾向にあり、低成長期に入っていることがデータで示されていました。現在は物質的には満たされ、大半の人々が食べることに困らない時代です。君たちが生きるこれらの社会は、労働の対価としての報酬、それを目的とするのではなく、働くことそれ自体が充実感につながるような社会へとかわるべきと書かれていました。新型コロナウイルスにより、この流れは加速します。

すでに若者の中には、このことを体現している人がいます。みなさんもテレビでご存じと思いますが、分身ロボット「オリヒメ」の創作者吉藤健太郎さんもその一人です。彼は小学校五年生から中学二年生まで引きこもりとなりました。人とのコミュニケーションが苦手であったためです。母親が申し込んだ「ロボットコンテスト」をきっかけにして、彼は立ち直りました。その後、電動車椅子の開発をきっかけに高齢者を訪ね歩く中、多くの高齢者が孤独を感じており、引きこもっていた当時の自分と重なりました。そして「孤独を解消するツール」としてオリヒメを思いつきました。やらずにはいられないという心の叫びでした。「孤独からの解消」とは自分が必要とされていない人間であると言う状態からの脱出であり、それには人と人とのつながりが鍵であるといった強い信念に彼は突き動かされていました。二十二才から二十四才の頃です。オリヒメを作り出すことは、お金目的の仕事ではなく、自己充足感を得られる活動でした。

君たちもきっと将来、自分の中から湧き上がってくる衝動に突き動かされて活動することでしょう。長い人生、決して焦る必要はありません。じっくりと自分にしかできない道を見つけ、着実に歩み続けていただきたいと願います。考え続けることです。求め続けることです。

これから先、皆さんには、多くの出会いが訪れます。全て偶然の産物であり、また必然でもあります。道を探すきっかけは、様々な出会いにあります。人との出会い、本との出会い、芸術との出会いなど様々な出会いを大切にして、これからの人生を歩んでください。

令和3年3月12日　鳥取大学附属中学校校長　小玉 芳敬

「3年生を送る会」を行いました。

卒業式前日の3月11日（木）、生徒会主催による「3年生を送る会」を行いました。これは、卒業生が3年間の中学校生活を振り返ることで、先生や同級生・後輩とのつながりを再認識し、附中での生活の充実感や達成感を味わったりするためです。また、1・2年生が、卒業していく3年生への感謝の気持ちを伝えることにより、来年度の活動への意欲を高め、よき伝統を引き継ごうとする態度を強くするためでもあります。

3年間の思い出ビデオで始まった会は、感謝の縦割りメッセージ贈呈、在校生代表による送辞と3年生代表の答辞と進みました。附属中学校では、卒業式ではなく、「3年生を送る会」で送辞、答辞を行っています。そして、最後に、1・2年生が2人1組になり3年生の教室に行き、3年生一人ずつに花束を贈呈しました。3年生代表塩出一貴君の答辞を抜粋して紹介します。

答辞

３年前の４月、私たちは真新しい制服に身を包み、附属中学校に入学しました。１年生の運動会練習では、縦割り種目で全く知らない先輩と同じグループになりましたが、先輩に優しく接していただき、練習が楽しくなっていました。結局、運動会は中止になってしまいましたが、練習で私たちを引っ張る先輩方の姿に憧れをいだきました。

２年生になり、私たちも学校（後輩）を引っ張っていく立場になりました。部活動では初めての後輩にどう接したら良いか分からず戸惑うこともありましたが、先輩としてお手本になれるように努めたことを思い出します。３年生の引退後は私たちが附属中学校の代表なんだという自覚が芽生えました。

そして３年生、新型コロナウイルスの感染拡大により、修学旅行が中止されたり、運動会も午前だけの開催になったりと、我慢を強いられる１年間でした。しかし、そのような状況だからこそ、１つ１つのイベントへの強いこだわりが見られました。特に文化祭の合唱コンクールでは、練習時間が少ない中で、より団結が強固なものとなり、どのクラスも素晴らしい合唱ができました。クラスの仲間とひとつのものを創りあげたときの心震える感動は今でも忘れられません。

素晴らしい仲間と共に過ごした３年間、思い出を挙げればきりがありません。このような学校生活が過ごせたのは、先生方をはじめ先輩方や後輩の皆さんがいてくださったお陰です。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちの向かう未来には、今年のように予想することのできない多くの変化や困難が待ち受けているでしょう。しかし、今後は誰かに決められるのではなく、自分の意志で様々なことに挑戦し、自分の未来を切り拓いていこうと思います。それぞれの進路で、さらなる成長を遂げることをここに誓います。

最後になりましたが、附属中学校の益々のご発展と皆様のご健勝を心からお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和３年３月１１日　　卒業生代表　塩出 一貴

１・２年生、進級への自覚

３年生が卒業して、学校は１・２年生だけの生活が続きます。３年生がいないことによって学校の雰囲気も少し違ったものになりますが、１・２年生にとっては、本年度のまとめをすると同時に、来年度に向けて意識を高めていかなくてはならない期間でもあります。これまで３年生がいることによってあまり目立っていなかった部分が、新たに改善すべき課題としてクローズアップされてきたりもします。今一度謙虚に学校生活を振り返り、それぞれ進級に向けた自覚を高め、なすべき準備を進めてほしいと思います。

ところで、春休み中の部活動は自主的に活動する時間が多くなります。「大きな声であいさつや返事をする」「ルールやマナーを守って規律ある練習をする」「道具を大切にする」など基本的なことですがとても大切なことです。すべては基本を大切にすることから始まります。部長任せにするのではなく、部員一人一人が意識してやり切ることが重要であり、まずは部活動を通じて進級への意識を高めていくことも効果的ではないでしょうか。頑張れ、１・２年生！